

（例）「個人」という存在を構成する存在と関係

心身二元論的発想に基づき、  
まず人間は「心」と「体」の二つの要素に分解される

その上で「心と体の状態を認知する存在」（＝自我）を  
考慮すると、「個人」は「心」、「体」、  
およびその二つを認知する「自我」という  
三要素により構成されると考えられる

そのことを「存在」と「関係」という概念に  
マッピングすると、左図の通りに表せる

これらを先に述べた原理に当てはめると、  
「自我」は「思考すること」により  
「心」は「幸福であること」により  
「体」は「健康であること」により  
自身を維持しようとする

また、「自我」は「心」と「体」の存在により  
初めて自身が存在できるという「依存関係」にあり、  
同時に、「心」と「体」を可能な限り認知し  
かつそれらをコントロールしようとする

「心」は自身の幸福を、「体」は自身の健康を望み、  
自然とそこへ向かうよう振る舞う  
この振る舞いは「自我」の認知から漏れることもあり  
無意識的な行動として現れる

